

第109回日本精神神経学会学術総会
精神医療奨励賞受賞講演

相双地域に新しい精神科医療保健福祉システムをつくり 震災・原発事故からの復興再生を進めよう

丹羽 真一（相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会理事/
福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座特任教授）

震災・原発事故直後に、福島第一原発から30kmの同心円の中にある精神科病床を有する病院5つは入院患者を30km圏の外の地域の病院へ移送することが求められた。その結果、合計800人ほどの精神科入院患者が福島県内外の病院へ移送され、その5病院が一旦閉鎖され、3クリニックも一旦機能を停止した。福島県立医科大学医学部神経精神医学講座と、同大学看護学部家族看護学部門精神看護の有志が「福島医大こころのケアチーム」を作り、平成23年3月末から相馬市の公立相馬総合病院に「臨時精神科外来」を設け、こころの問題を抱えて困っておられる方々の外来診療を開始した。その後、訪問サービスとクリニックを行う地域のベースを作ることとなり、全国から支援に入った方々の御援助をいただきながら、23年の12月にNPO「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」を立ち上げ、それまで精神科医療施設がなかった相馬市の建物を借り、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」を開所し、「メンタルクリニックなごみ」と緊密に連携して、アウトリーチ主体の地域精神保健福祉事業を展開することとなった。「相馬広域こころのケアセンターなごみ」は、福島県こころのケアセンターの相馬センターを委託され、また福島県の震災対応型アウトリーチ事業を受託して、仮設住宅や借り上げ住宅で生活する被災者、地域で生活する精神疾患当事者・家族、地域住民など、相双地域の多くの人々のこころの健康を守り増進するための事業を行ってきた。

平成25年度日本精神神経学会精神医療奨励賞を授与いただき感謝申し上げます。今回の受賞は東北全体への激励と受けとめ、引き続き東日本大震災・福島第一原発事故からの復興と精神科医療の再生、被災者のメンタルヘルス増進を目指して努力を継続する決意をしている。福島県の理解とサポートをはじめ、全国、世界の多くの方々からの御支援に感謝申し上げます。

<索引用語：東日本大震災、福島第一原発事故、精神保健、こころのケアなごみ>

はじめに

この度は、「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」の事業に対しまして、平成25年度日本精神神経学会精神医療奨励賞を授与くださいまして、誠にありがとうございます。この場をお借りし、これまでの日本精神神経学会および会員の皆様への東北支援、福島支援に心から感謝いたします。今回の受賞は東北全体への激励と受けとめ、引き続き東日本大震災・福島第一原発事故からの復興と精神科医療の再生、被災者のメ

ンタルヘルス増進を目指して努力を継続してまいりたいと気持ちを新たにしております。

I. 福島医大心のケアチームから相馬広域 こころのケアセンター設立までの経緯

福島県太平洋岸北部の新地町、相馬市、南相馬市、飯舘村を含む地域は相双地域と呼ばれます。相双の相は相馬の相、相双の双は双葉の双からとられたもので、福島県の太平洋岸である「浜通り」の北部の相馬郡、中部の双葉郡のうち、大体、福

島第一原発より北の地域を指す用語です。

震災・原発事故の前には、相双地域のうち新地町、相馬市には精神科の医療施設がありませんでした。南相馬市には精神科病院が1つ（雲雀ヶ丘病院）、精神科クリニックが3つありました。震災・原発事故直後に、第一原発から30 kmの同心円の中にある精神科病床を有する病院5つは入院患者を30 km圏の外で比較的放射能による被災が少ないと考えられる地域の病院へ移送することが求められました。その結果、合計800人ほどの精神科入院患者が福島県内外の病院へ移送されて、その5病院が一旦閉鎖され、3クリニックも一旦機能を停止しました。

地域で生活し外来通院しておられた患者で体育館などの大規模避難所に避難された方も多くおられました。流通が遮断した結果、薬が不足して困った方もたくさんおられました。福島県立医科大学医学部神経精神医学講座と、同大学看護学部家族看護学部門精神看護の有志が「福島医大こころのケアチーム」を作り、3月末から30 km圏外にある相馬市の公立相馬総合病院（こころも震災前に精神科はありませんでした）に「臨時精神科外来」を設けさせていただき、行き場をなくして困っておられる方々をはじめ、こころの問題を抱えて困っておられる方々の外来診療を開始いたしました。幸い、この臨時精神科外来の支援に、全国の精神科医、看護師、精神保健福祉士など300前後を超える方々が入れ代わり立ち代わり来ていただき、外来診療のみでなく訪問活動や地域保健活動として「ちょっと一休みの会」を仮設住宅集会場や保健センターなどで開くことができました。こうした活動を継続できたのは公立相馬総合病院の熊院長先生はじめスタッフの皆様の御理解と御協力があつたおかげです。ここに深く感謝を申し上げます。

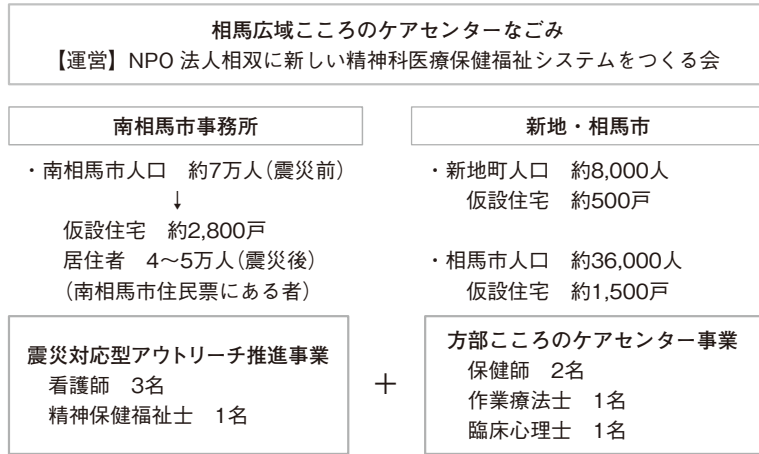
II. 相馬広域こころのケアセンターなごみの取り組み

しかし、いつまでも「間借り生活」では不安定であるという認識から、訪問サービスとクリニック

を行う地域のベースを作ろうという話になり、全国から支援に入った方々の御援助をいただきながら、震災の年、平成23年の12月にNPO「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」を立ち上げ、それまで精神科医療施設がなかった相馬市の建物を借り、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」を開所いたしました。「なごみ」は、平成23年の初夏からは診療を再開された南相馬市内の3カ所の精神科クリニック、平成24年1月から入院治療を再開した南相馬市内の精神科病院である雲雀ヶ丘病院、相双地域の一般診療科病院やクリニック、および同地域で事業を継続・再開した精神保健福祉施設と協力し合いながら、①地域住民への精神科医療、保健、福祉に関する相談・啓発事業、②地域住民に関わる公共職員および福祉施設従事者を対象としたこころの相談事業、③医療、保健、福祉関係者を対象とした研修会事業、④医療、保健、福祉関連他団体との交流、連携、協力事業、⑤福祉施設と医療機関との間における巡回車の運行事業、⑥当該地域の医療、保健、福祉に関する書籍・DVDなどの発行・販売事業、⑦その他この法人の目的を達成するために必要な事業、を行うこととなりました。

「相馬広域こころのケアセンターなごみ」は仮設住宅や借り上げ住宅で生活される被災者、地域で生活する精神疾患当事者・家族、地域住民など、相双地域の多くの人々のこころの健康を守り増進するための事業を行ってきました。例えば、被災者の戸別訪問支援、「ちょっとここで一休みの会」や「いつもここで一休みの会」など被災者のメンタルヘルス増進の活動、被災者支援に動かれている公共職員の皆さんに対する相談事業、精神科医療につながることを期待される人々の受診支援などです。また、NPOとして共にアウトリーチ主体の医療によりメンタルヘルスを守る事業を行う「メンタルクリニックなごみ」と緊密に連携してきました（図1）。

「なごみ」は福島県の震災対応型アウトリーチ事業の委託を受けて、相双地域のこころに障害をもつておられる方々の地域生活サポート事業を



※事務兼相談員，事務員4名を除く
 ※対象地域は，新地町，相馬市，南相馬市

図1 相馬広域こころのケアセンターなごみの体制



図2 なごみが行っているサロン活動などの様子

行っており，平成25年春の時点では約40名の方を対象としています。また，福島県こころのケアセンターの委託を受けて相馬センターとして活動しており，仮設住宅や借り上げ住宅などに生活しておられる被災者を中心として，平成24年春から25年春の間に1,056件の訪問活動を行ってきまし

た（新地町76件，相馬市854件，南相馬市126件）。訪問相談の内容は多岐にわたりますが，精神症状管理が31%（936件），対人関係支援が22%（645件），社会生活支援が17%（522件），家族支援が15%（451件），身体症状管理が15%（444件）などとなっています（図2）。

Ⅲ. 精神医療奨励賞受賞を励みに、

アウトリーチサービスの充実を通じて、
一層震災・原発事故からの復興再生を進めます
今回、精神医療奨励賞を授与いただいたことは、私たちが激励していただき、今後一層アウトリーチサービスを充実させ、震災・原発事故からの復興再生を進めなさいという促しであると理解しております。また、福島の人たちが受賞させていただきましたが、これは被災3県全体への励みであるとも理解しております。この理解に沿って、今後とも精進してゆきたいと気持ちを新たにしているところです。

私たちの事業は、福島県の理解とサポートをはじめ、全国、世界の多くの方々からの御支援により進めてくることができました。米国ニューヨークの Japan Society, 米国日本人医師会, Baseball Players Trust, CWAJ (College Women's Association of Japan), 世界の医療団, ヤマト財団, 日

本財団, 新日本製薬および多くの個人の皆様方から多大なご支援をいただいております。こうしたすべての皆様の御支援に紙面をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

おわりに

以上、2013年の日本精神神経学会の精神医療奨励賞をいただきましたことに、「クリニックなごみ」、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」、NPO法人「相双に新しい精神科医朗保健福祉システムをつくる会」を代表いたしまして御礼の言葉を述べさせていただきました。全国の精神神経学会会員の皆様をはじめ、精神科医療保健福祉に携わる皆様の引き続き御支援をお願いいたしまして受賞の御挨拶とさせていただきます。

なお、本論文に関連して開示すべき利益相反はない。

A New Structure for Mental Health and Welfare in the Soso Area to Promote the Recovery of People in Fukushima from the 3.11 Earthquake and Nuclear Power Plant Accident

Shin-Ichi NIWA

*Director, NPO 'New Psychiatric Care, Health and Welfare System in Soso (Kokoro-no-Care Nagomi)'
Adjunct Professor by Special Appointment, Department of Psychiatry, Aizu Medical Center, Fukushima
Medical University*

Immediately after the 3.11 Earthquake and Fukushima Dai-Ichi Nuclear Power Plant Accident, 5 hospitals with psychiatric beds within a 30-km radius of the nuclear power plant were ordered to move their inpatients to other hospitals outside the 30-km zone. As a result, more than 800 inpatients in total were transferred to other hospitals within or outside Fukushima Prefecture, and the 5 hospitals were closed. In addition, 3 psychiatric clinics within the 30-km radius stopped operating temporarily. In March of 2011, several volunteer members of the Department of Neuropsychiatry and the Mental Health Division, Family Nursing Department, Fukushima Medical University, organized the Mental Health Care Team of Fukushima

Medical University to support the disaster victims. The team opened a temporary psychiatric outpatient clinic in Soma City General Hospital through the courtesy of its staff to provide services for people needing and seeking assistance for mental health. The team continued to provide psychiatric services in this temporary clinic until the end of 2011. A new psychiatric clinic, 'Mental Clinic Nagomi', was inaugurated by the team in January 2012 with the kind support of many volunteers from throughout Japan. At the same time, the NPO 'New Psychiatric Care, Health and Welfare System in Soso (Kokoro-no-Care Nagomi)' was also inaugurated mainly by the team members. Mental Clinic Nagomi and Kokoro-no-Care Nagomi closely collaborate with each other to provide new community-based and out-reach mental health services in the Soso area.

Kokoro-no-Care Nagomi (abbreviated as KCN) has accepted the role of the Soso Branch of Fukushima Kokoro-no-Care Center entrusted by the Fukushima Center. KCN has also been designated as a facility performing the Out-Reach Project responding to the complex disaster in Fukushima planned by the Japanese Government. KCN has been engaged in work to support and ensure the mental health of disaster victims, persons with psychiatric problems, and community residents living in temporary or their own houses located in the Soso area.

We wish to express our sincere thanks to the Japanese Society of Psychiatry and Neurology (JSPN) for awarding us the 2013 JSPN Award for Special Contributions to Psychiatric Practice. We think that this award represents JSPN's wish to encourage the people and psychiatric professionals of the Tohoku District. Encouraged by the award, we have resolved to continue our efforts to facilitate the recovery of the mental health of victims and residents of Fukushima.

We wish to express our sincere and deep gratitude to Fukushima Prefecture, the Japan Society, Japanese Medical Society of America, JAMSNET Tokyo, CWAJ (College Women's Association of Japan), The Englewood NJ Rotary Club, The NJ Rotary District 7490, Médecins du Monde (MDM), Shin-Nihon Seiyaku Company Ltd., and all the individuals who have kindly supported us.

< Author's abstract >

< **Keywords** : East Japan Great Earthquake, Fukushima Dai-Ichi Nuclear Power Plant Accident, Mental Health, Kokoro-no-Care Nagomi >
